

ほなゐ歴史通信

第119号

2026(令和8).6.1

太子町内民間所在資料調査について

歴史を伝える重要な媒体の一つに古文書や古記録などの資料がある。現代を生きる私たちが過去の出来事を知ることができるのも資料が現代に残っているからである。

太子町では、町史編さん事業（昭和四十七年度～平成四年度）において、主に町内に所在する資料を対象として資料調査が実施され、少なくとも五十三件の目録が作成された。このうち五十件の目録は、事業終了後に発行された『太子町史料目録』及び『旧黒澤村役場所蔵文書目録』に掲載され、中央公民館歴史資料室で閲覧に供されている。このように、太子町では、町史編さん事業の資料調査を通じて、町の歴史を伝える資料の所在が明らかにされた。ところが、近年、自然災害、住居や倉庫の建替え、所蔵者の代替わりや転居等が生じる中で、資料が散逸し、所在不明になる事例が全国的に見られるようになった。

このような中で、茨城県では、県立歴史館により、令和三年度から令和七年度まで、茨城県内民間所在資料調査が実施された⁽¹⁾。これは、県立歴史館が県史編さん事業等により把握している資料のうち、個人等の民間の所蔵者が所蔵する資料を対象に、その所在を所蔵者へのアンケートにより調査したものである。

太子町では、令和三年度に七十七件⁽²⁾を対象として調査が実施された。事前に太子町教育委員会が所蔵者にアンケート送付の可否を確認し、十二件の所蔵者から協力を得ることができたことから、県立歴史館からアンケートを送付したところ、十一件の所蔵者から返信を得ることができた。この十一件のうち、現在も資料の所在を確認できたのは六件だった。六件以外の資料が全て散逸したというわけではないが、資料を保存するための措置を講じる必要性を痛感する結果であった。

このような状況を踏まえて、太子町歴史資料調査研究会では、令和七年度から、太子町内民間所在資料調査を実施することとした。これは、町史編さん事業の資料調査で調査された資料のうち、町内の民間の所蔵者が所蔵する資料を主な対象とし、その所蔵者に協力を仰ぎ、協力を得られた所蔵者を訪問し、既存の目録と突合せするなどして資料の所在を調査するとともに、必要に応じて所蔵者に資料を保存するための支援を行うものである。なお、調査により得られた成果は、随時、本誌や「ふるさと歴史講座」等で報告する。調査を通じて少しでも多くの資料が未来に継承されるよう全力を尽くしたい。

なお、自宅等で資料を保管されており、調査に御協力いただける方は、太子町教育委員会事務局生涯学習担当（〇二九五・七二・一一四八）までぜひ御連絡いただきたい。

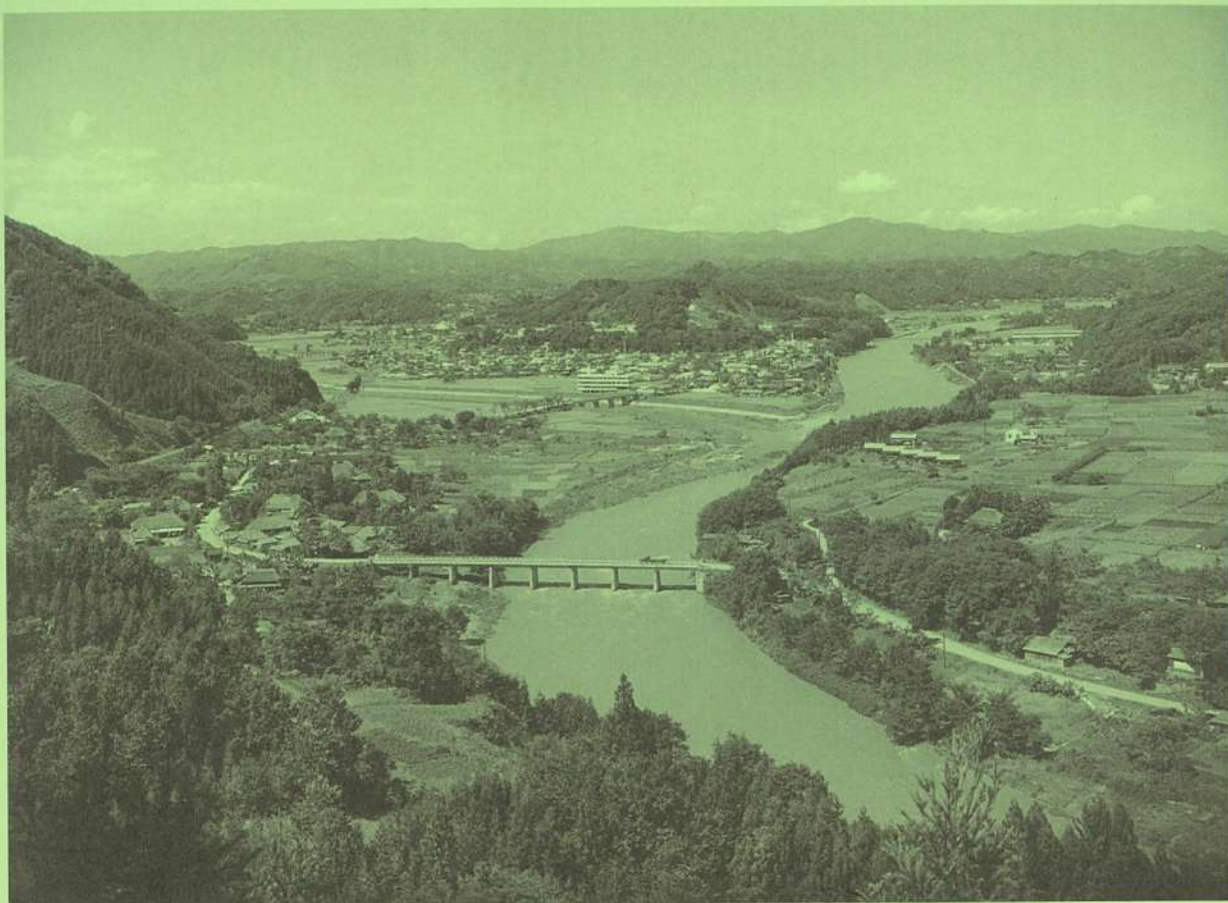
註

(1) 武子裕美「茨城県内民間所在資料調査について（中間報告）」（茨城県立歴史館『茨城県立歴史館報』第五十一巻、二〇二四）。以下、茨城県内民間所在資料調査に関する記述は同書による。

(2) 七十七件の内訳は、県史編さん時の資料調査により調査された資料七件、太子町史で活用された資料六十八件、その他二件である。

（大金祐介）

懐かしき昭和の太子（八）



○太子町中心市街地（昭和三十七年頃）

太子町中心市街地を南から北に向かって写した写真である。旧太子町役場（昭和三十六年九月竣工）が写る一方、旧松沼橋（昭和三十八年五月竣工）が写っていないことから、昭和三十七年（一九六二）頃に撮影された写真であると思われる。

中央に写る川は久慈川で、手前に写る橋は北田気と小久慈とを結ぶ久慈川橋である。写真に写るとおり、かつて国道一一八号線は、北田気から久慈川橋を渡って小久慈に入り、中心市街地を経て矢田に抜けていた。そのため、久慈川橋は中心市街地の南の玄関口となっていた。先代の久慈川橋は、木鉄混交のトラス橋で、明治三十六年（一九〇三）八月に架橋された。写真に写る久慈川橋は、鉄筋コンクリート造で、昭和八年三月に架け替えられたものである。架橋から九十三年が経過した現在も使用されている。

なお、国道一一八号線のバイパスが久慈川橋交差点から池田橋交差点まで開通したのは、昭和四十七年八月である。（大金祐介）

太子町歴史資料調査研究会では、明治・大正・昭和期の写真や絵葉書を探しております。お見せいただける方は、太子町教育委員会事務局生涯学習担当までご連絡ください。

編集 太子町歴史資料調査研究会

編集人 藤井 達也（太子町歴史資料調査研究員）

大金 祐介（太子町歴史資料調査研究員）

小松崎 研（太子町歴史資料調査研究員）

山崎 仙一（太子町教育委員会事務局）

村田 光（太子町教育委員会事務局）

発行 太子町教育委員会

久慈郡太子町大字池田二六六九番地

☎ 0295（72）1148

発行日 二〇二六年（令和八）六月一日